

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2023-05-01 No. 152



株式会社 コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全 目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 25 第 5.0 版 - 車載受信機の保護のための限度値と測定方法(2/2)	3
IEC: 新規格リスト	6
ISO: 新規格リスト	8
UNECE: 車両規制調和世界フォーラム第 188 回セッション(3/3)	8
UNECE: UNECE の協定、附属規制およびその改正の状況 - 改訂 31 の紹介	10
国際テーマ: ブラジルが一部の機器に関してサイバーセキュリティ要求事項を追加	12
国際テーマ: 欧州における機器の修理を受けやすくする権利の提案	12
国際テーマ: 欧州, 韓国: 高まるサイバーセキュリティの懸念とそれに対する戦略	13
国際テーマ: リチウムイオン電池と関連製品の中国 CCC 認証	14
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	15

USA: FCC: 米国における無線規則の現状: 総務省 MRA 国際ワークショップから(1/2)	16
USA: FCC: KDB: 機器認可プログラムによる通信機器等への国家安全保障上の脅威からの保護	18
USA: FCC: ドイツ Stadler 社の適用免除要請に関するコメントを募集: 自動列車防護システム	18
USA: CPSC: 携帯発電機の安全基準提案: CO 排出の制限及び発電機の停止要求	19
USA: DOE: 省エネルギープログラム: テレビセットの試験手順: 修正	20
USA: DOE: ルームエアコンとポータブル空気清浄機の効率化規則を最終決定	20
USA: DOE: バイデンクリーンエネルギー計画の最新情報: 輸送の脱炭素化、バッテリーの開発	21
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	22
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	22
USA: IEEE: 新規格リスト	24
カナダ: IC: 無線標準仕様 RSS-119 修正 1、RSS-HAC Issue 第 2 版適合強制日延期	24

EU: 電気電子機器のオフモード、スタンバイモード等でのエネルギー消費のエコデザイン規制	26
EU: グリーンディール: 再生可能エネルギーの展開を加速するためのより強力な法律を制定	27
欧州: 英国 UK: 機械に関する指定規格リストが更新	28
欧州: 英国 UK: ガイダンス「UKCA マーキング: 適合性評価と文書」(2/2)	28
EU: CENELEC: 新規格リスト	30
EU: ETSI: 新規格リスト	32
オーストラリア: AS/NZS 新規格リスト	32

中国: SAMR: 電子製品の品質に関する 2022 年の国家監督抜取検査の状況についての通達	33
中国: SAMR: 家電製品の品質に関する 2022 年の国家監督抜取検査の状況についての通達	33
中国: CQC: 家庭用および類似用途の掃除機の清掃能力等級認証実施規則および技術規範改訂	34
中国: 新規格リスト	35
台湾: 新規格リスト	36
韓国: 「放送通信機資材等の適合性評価に関する告示」一部改正通知	37
韓国: 「簡易無線局・宇宙局・地球局等その他の業務用無線設備の技術基準」一部改正	38
韓国: 「電気用品及び生活用品安全管理法運用要領」改正(案)行政予告	38
韓国: 「電気用品及び生活用品安全管理運用要領」一部改正(案)行政予告	39
韓国: 「電気用品安全基準 KC 10031」制定(案)行政予告	40
韓国: KS 新規格リスト	41

総務省: 令和 4 年度無線設備試買テスト中間報告(第 3 次)の公表	42
総務省: 「無線 LAN 等の欧米基準試験データの活用の在り方に関する検討会」報告書の公表	42
総務省: 「電波法に基づく特定無線設備基準認証制度マニュアル」の公表	43
総務省: 情報通信審議会 電波利用環境委員会 電力密度評価方法作業班(第 8 回)配付資料	44
経済産業省: 日本産業規格(JIS)を制定・改正しました(2023 年 4 月分)	45
経済産業省: AI に特化した学習から DX に必要なスキルを学ぶことができる実践プログラムへ	45
経済産業省, 国土交通省: 国内初! 自動運転車に対するレベル 4 の認可を取得しました	46
国土交通省: 安全性能評価結果を公表、トヨタ「シエンタ」ダイハツ「ムーヴキャンパス」	46

ちょっといっぴく〜小クイズコーナー デファクト標準について	15
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	25
社長の独り言	47



IEC: 規格解説: CISPR 25 第 5.0 版 - 車載受信機の保護のための限度値と測定方法(2/2)

- CISPR 25 第 5.0 版 2021-12 車両、ボート、および内燃機関 – 無線妨害特性 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法 の概要を報告する。
- 本第 5 版は、2016 年に発行された第 4 版を取り消し、置き換える。本版は、技術的な改訂からなる。本版には、前版に対していくつかの重要な技術的変更が含まれている。

UNECE: UNECE の協定、附属規制およびその改正の状況 - 改訂 31 の紹介

- UNECE の協定、附属規制およびその改正の状況 - 改訂 31 に関する三文書を紹介
- これら三文書には、(A) 全ての国連規制の名称リスト、協定への締約国リスト、(B) 国連規制の適用日、及び、各国で指定された型式承認機関および技術サービス、並びに、(C) 国連規制に対する関連公式文書の一覧と状況、および、国連規制への改正の発効日等が記載されている。

USA: FCC: 米国における無線規則の現状: 総務省 MRA 国際ワークショップから(1/2)

総務省 MRA 国際ワークショップ 2023 (2023 年 3 月) の講演より以下等を報告する

- FCC 機器認可の概要 FCC Equipment Authorization Overview
- 証明と試験 Certification and Testing
- 市場調査 Market Surveillance
- 最近の活動領域 Recent areas of activity
- 追加情報 Additional Information Sources

USA: CPSC: 携帯発電機の安全基準提案: CO 排出の制限及び発電機の停止要求

- 米国消費者製品安全委員会 (CPSC) は、携帯発電機から排出される一酸化炭素による事故を防止するための要求事項を含む「規則案作成の補足告示 SNPR」を発出した。CO 排出の制限、及び発電機の停止要求が含まれる。UL 2201 と PGMA G300 の両規格の要求事項が取り入れられている。

EU: 電気電子機器のオフモード、スタンバイモード等でのエネルギー消費についてのエコデザイン規制

- 家庭用・オフィス用電気電子機器のオフモード、スタンバイモード等でのエネルギー消費についての環境配慮設計 (ecodesign) 要求事項を定める欧州委員会規制が発行された。2025 年 5 月 9 日から強制となる。

欧州: 英国 UK: 機械に関する指定規格リストが更新

- 2023 年 4 月 12 日付けで、機械に関する指定規格 (designated standards) のリストが更新された。このリストの EN 15194:2017 (電動アシスト自転車) に関して制約が 2 点追加された。
- この規格そのままの使用では、適合の推定が与えられない、追加の対策が必要である。

総務省: 「無線 LAN 等の欧米基準試験データの活用の在り方に関する検討会」報告書の公表

- 総務省では、登録証明機関による無線 LAN 等の基準認証において欧米基準の試験データの活用に関する要望が顕在化したことを踏まえ、首題の検討会を開催してきた。この度その報告書がまとまった。この報告書の内容が推進されることになると、海外メーカの日本参入が容易になりばかりでなく、日本メーカにとっても、試験項目の共通化、類似化により機器設計および試験の合理化が期待出来る。

IEC: 規格解説: CISPR 25 第 5.0 版 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法(2/2)



Summary

CISPR 25 第 5.0 版 2021-12 車両、ボート、および内燃機関 – 無線妨害特性 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法 の概要を報告する。

- 本第 5 版は、2016 年に発行された第 4 版を取り消し、置き換える。本版は、技術的な改訂からなる。本版には、前版に対して次の重要な技術的変更が含まれている:
 - a) 新しい周波数帯を含める、b) TEM セル関連の附属文書の削除、
 - c) 測定の不確かさに関する附属文書を追加、d) 全体的な改善。
- 本文書に規定された試験手順と限度値は、①車両の放射性エミッション、および、②コンポーネント/モジュールの伝導性/放射性エミッションに関するものである。このうちのコンポーネント試験は、車両試験に取って代わるものではない。但しコンポーネント試験は、実際の車両が利用できなくとも、コンポーネントが評価できるメリットがある。
- 本文書には、周波数範囲 150 kHz から 5925 MHz (従来の上限 2500 MHz が 5925 MHz に変更) での、限度値と無線妨害の測定に関する手順が含まれている。本文書は、車両等、および、車両等での使用を目的とした電子/電気部品に、適用される。
- 4 つの充電モードが定義される: 充電モード 1、充電モード 2、充電モード 3、充電モード 4 であり、充電モード 4 は、「車両が EVSE(電気車両電源供給機器)に接続され、そこから車両に DC 電力を供給し(オフボード充電器を使用)、信号/制御線および/または有線ネットワーク線を介して車両と充電ステーション間の通信が行われる」と定義される。
- 「6 コンポーネントとモジュールの測定」項には、①伝導性エミッション – 電圧法、②伝導性エミッション – 電流プローブ法、及び、③放射エミッション – ALSE(吸収体配列シールド室)法の三種が規定されている。一つの方法だけではコンポーネントとモジュールの全振る舞いを掴み切ることができないからである。
- 「測定の不確かさ」に関する 4 件の付属文書が新規追加された。同じ車両のアンテナが受信したエミッションの測定、及びコンポーネント/モジュールからのエミッションの測定、それぞれに対し、測定計装の不確かさ、及び測定に関する不確かさバジェットを情報文書として記載している。

CISPR 25: 2021 「車両、ボート、および内燃機関 – 無線妨害特性 – 車載受信機の保護のための限度値と測定方法 **Vehicles, boats and internal combustion engines - Radio disturbance characteristics - Limits and methods of measurement for the protection of on-board receivers**」

(以下解説文で、ローマン体(立体)は規格本体のテキストそのものであり、斜体は編集人によるテキストである)

6 コンポーネントとモジュールの測定

6.1 一般

コンポーネントとモジュールの測定については、取り付け位置、車体の構造、およびハーネスの設計が、車載ラジオへの無線妨害の結合に影響を与える可能性があるため、本節では複数の限度値レベル(クラス 1 ~ クラス 5)を定義している。

LV(低電圧) コンポーネントの試験方法と要件は、この節で定義されている。**LV(低電圧)/HV(高電圧)** コンポーネントについては、追加の試験方法と限度値が付属書 H で定義されている。



株式会社コスモス・コーポレイション

自動車部品の耐水試験についてのご案内

当社では自動車部品に対する耐水試験が実施可能です。

(JIS D 0203 対応)

対象試験記号: R1 / R2 / S1 / S2

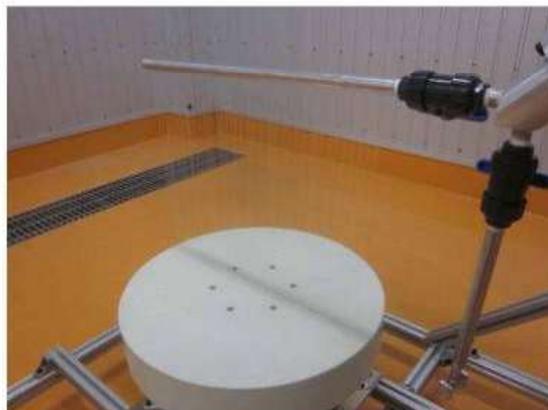
評価実施内容

散水試験	R1・・・ 水滴に触れることのある部品の機能を調べる試験
	R2・・・ 間接的に風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
噴水試験	S1・・・ 直接風雨又は水しぶきを受ける部品の機能を調べる試験
	S2・・・ 強い受水状態について部品の機能を調べる試験

R1 及び R2



S1 及び S2



耐荷重: 45kg まで試験実施可能です。

許容サンプルサイズ: 実施可能サンプル寸法は規格に従い、基本的に 40cm の高さで設定していますが、それ以上の寸法であっても対応可能な場合もございますので、指定のサンプルサイズを事前にご連絡下さい。

松阪事業所 : 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718-1

URL : www.safetyweb.co.jp E-mail : sales@cosmos-corp.com

【お問い合わせはCS部まで -- TEL:0598-30-5225(直通), FAX:0598-30-5571】

株式会社コスモス・コーポレイション

社長の独り言

2023年4月22日
濱口 慶一

新型コロナウイルスへの対応もインフルエンザ並みになりましたが、マスクをしての外出や訪問の習慣はまだ流行以前には戻っていないように感じますが、皆様は感染せずにより乗り切ったことと思います。

私は、今回の新型コロナウイルスへの5回のワクチン接種が効いたのか、感染することもなく、また、インフルエンザにも感染することなく、まもなく75歳の誕生日を迎えることができそうです。

3年前に、新潟の長岡科学技術大学の社会人コースのシステム安全工学科に入学し、この3月に無事に卒業できました。その間に多くの業務を社員へ任せていたのですが、卒業と同時に業務に戻りました。

今回は、コスモス創立の頃の話をしたと思います。1987年に、株式会社エーペックス・インターナショナルを退職し、退職時の対応に不満を感じて、ある弁護士に相談に行き、取締役としての法律上の立場などに、あまりにも無知識だったことを、弁護士から叱られました。相談料を支払っている私がなぜ叱られなければならないのか、と憤りをおぼえたことを思い出します。相談の最後に弁護士から、“君がそんなに、元勤務先から、慰謝料的に退職金が取れると考えているなら、訴訟を起こしてあげても良いが、取れて1000万円程度だろうし、それには10年位の期間と、弁護士料もかかるよ。それよりそんなに自信があるなら同じ業態の会社を興したらどうだ”と言われました。興奮していたのが冷めると同時に、弁護士のアドバイスが正しいと理解して、あるお客様に相談したことで決意して、現在の株式会社コスモス・コーポレーションを創業しました。最初は資金もほとんどなく、家内に生活費の補助として貯金させていた300万円を資本に、そのうちの200万円を事務機器や試験評価用の機材の購入に、残りの100万円を3ヶ月の給与にして、使い切るまでにお客様から仕事を受注できない場合は、廃業すると決めて取り組みました。コスモスの現在があるのは、多くのお客様と、協力してくれた社員に支えられたおかげだと感謝しています。

しかし、創業時にお客様に公言してきた“どこよりも確実な納期で、より良い品質の成果物の提供を可能にする、製品安全技術の提供”、“お客様の製品への製品安全の確実な組み込みへのお手伝い”、“製品が市場に出た後、お客様のユーザーから要求される製品寿命の間には絶対に（製造物責任法での訴訟等で）お客様に損失を生じさせない安全技術”を今再認識する必要があると思います。また、長岡科技大での2年間に学んだ経営学、組織のリスク分析法、東日本大震災の教訓から企業に求められる顧客や社員への安心・安全への配慮の方向から、弊社のサービス内容、成果物の内容、組織の内容などを、レジリエンス思考でもう一度設計し直す必要があると強く感じています。特に長岡の恩師の指導で見つけた“我が国の第三者検査機構を語る”に述べられている、明治政府以降、初めて政府から独立した（関係法律では指導下に置かれますが）“民間からの真の第三者検査機関”にコスモスを成長させるための活動を私の終活にしようと思案する次第です。

最近も新聞でリコールのニュースを目にしますが、そのようなお客様にとって大きな障害になるリコールなどを絶対に生じさせない集団を今一層、目指していきたいと社員一同決意する次第です。そのためにも社員への教育や、コスモス認定検査員制度の発足などを進めていきます。

皆様方の温かいご指導、ご鞭撻を伏してお願いします。

- ニュースレターの内容

本誌は、EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation) 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU 及び UK, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域

- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

- 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレーション CS 部 (カスタマーサービス部) まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com

Tel 0598-30-5225

Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。

- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合)

1年 11,000 円(消費税込)

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレーションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC & 安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2023-05-01 (No. 152)

発行所: 株式会社 コスモス・コーポレーション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1

ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉品光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2023 株式会社コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。